

要求から創造、そして未来のくましろ祭へ

～ 「ゼロから1」行事づくりを支えた保護者と同僚 ～

兵庫支部 岨賢二（南あわじ市立神代小）

1. 運動会を復活させる！

昨年度3月初旬によるコロナウイルス拡散防止による全国一斉休校から、本校も6月まで臨時休校を余儀なくされました。その間、本校がある南あわじ市も「運動会や水泳の中止」「市の陸上競技大会の中止」が決定しました。しかし、休校中の子どもたちの日記には次のようなことが書かれてありました。

「休校になって最初はうれしかったけど、だんだん長引くにつれて友達に会いたい、みんなと勉強したいという気持ちがつよくなってきました。こうなったから、普段、僕たちはとても幸せな生活を送っていたことに気がつきました。」「当たり前を大切にしたい。」

「一旦なくなった行事を復活させる。」子どもたちの思いを知り、これまでのような教師主導の運動会ではなく、「子どもたちと創る運動会」ができないかと考えました。

2. くましろ祭に向けて「子どもや同僚、保護者の声」

コロナのせいで、小学校最後の運動会がなくなってとてもショックだった。だけど、今までにない生徒だけでつくっていく運動会が今できそうになっています。確実に成長すると思うし、逆に少しラッキーだと思った。（児童）

家では運動会のことをよくしゃべるし、「どないしょ」「どうしたらええん」とよく相談されていた。中止するのは簡単。この企画を聞いた時「この時期しかない」と思った。賛成あるのみ。（保護者）

子どものやりたいという思いを何とかバックアップしたいと考えた。その中で新しい歴史をつくった。自分たちでつくったという自負もある。地域を勇気づける、元気になる取り組みができた。子どもが自ら学ぶ姿勢は各学年でそれぞれ考えている。5年の担任が6年生の思いを受け止めさせる指導を行い、今日のような引き継ぎに至った。（校長）

3. くましろ祭までの足あと

6年生を中心に実行委員や児童会、コロナ対策部などの各部を立ち上げて、くましろ祭全体の企画や運営を行うようにしました。

- 7月 感染症の学習、各部の決定
- 8月 各部の活動、感染症の学習
- 9月 各部の活動、競技・演技内容等定
- 10月 各部の活動、くましろ祭(10.14)、事後アンケート
- 11月 来年度への引継ぎ（～3月）

○各部の主な活動内容

実行委員	名前の募集・決定、マスコットキャラクターの募集・作成、新聞の発行、選手宣誓、他学年の演技（競技）の確認、校長・職員交渉
全校演技部	全校生で行う演技の決定、練習内容を考える、準備物の確認
6年競技部	6年生で行う演技の決定、練習内容を考える、準備物の確認
全校競技部	全校生で行う競技の決定、練習内容を考える、準備物の確認
コロナ対策部	各演技についての審議、コロナ学習の発表、当日のコロナ対策

プログラム・旗	旗の作成、プログラム編成、プログラムの作成
児童会	開閉会式の企画・運営・司会、テーマの決定、応援合戦の検討

子どもたちがこの全校生からこの行事の名称やマスコットキャラクターを募集して決定しました。運動会ではなく、「くましろ祭2020」としました。昔からこの地域は「神代」と書いて「くましろ」とよんでいました。また、右のようなマスコットキャラクターを作りました。



くましろ祭2020のテーマ

当たり前を大切に

今こそ創ろう！ニューカルチャー

～くましろ祭2020～

○テーマに込められた思い

これまで当たり前にあったことや生活が失われた今、これまでの当たり前に向け、大切にしていきたい。そして、こんなときだからこそ、みんなで知恵を出し合いながら、新しいかたちのくましろ祭を創っていきたい。また、自分たちだけでなく、地域や保護者の人たちにも笑顔になってほしい。

4. くましろ祭大成功

くましろ祭当日。各学年からサプライズがありました。「行事を創り上げた6年生、ありがとう」心のこもったプレゼントが届きました。

そして本番。各学年、みんな笑顔で、それでも真剣に取り組んでいる子どもたちの姿がありました。6年生だけでなく、他の学年も担任と子どもたちが一緒に自分たちの競技を考えてきました。コロナ対策部は間隔や消毒の注意喚起を促しながら、競技を進めていきました。閉会式、最後の言葉で感動して涙する同僚の先生や保護者の姿がありました。「自分たちの思いを受け継いでほしい」という願いを込めて、6年生から5年生へくましろ祭の旗を渡す「引き継ぎ式」が行われました。

【6年生児童の感想】

6年生にとっては最後の運動会、中止と聞

いたときはすごく残念な気持ちになった。でも、こうやって「くましろ祭2020」ができることになったのは、6年生の熱い思いがあったからだと思う。「くましろ祭」に向けての話し合いがはじまったころ、最初にテーマを決めることになった。放課後まで長引くようになり、「早く帰りたい、遊びたい」と思う人もいた。でも、自分たちでつくる「くましろ祭」を成功させたい！という気持ちが大事だということを感じていくようになった。みんなの気持ちが一つの目標に向かってからは、それぞれの役割でおたがいに意見を交換しながら、「こういうふうにした方がいい？」や「こうしよう！」という話し合いがどんどん進むようになっていった。当たり前が当たり前でなくなった今、コロナ渦でも全部がなくなったわけではない。色んなことができる。来年も同じような状況になったとしても、5年生のみんなが全校生の代表として下級生を引っ張ってほしい。

5. 引き継がれる主体性

5年生をはじめとする下級生に自分たちの「くましろ祭」を引き継いでもらいたいという思いもあり、実行委員を中心に全校生と先生方にアンケートをとることになりました。11月17日には、5年生の児童が6年生の授業を参観に来ました。ここでは、「計画的にできなかった、余裕がなかった」という課題について話し合いました。「それでは計画的に行うためには？」「直前で決まっていたことは何か？」ということを確認し、各学年の演技図はくましろ祭の1ヶ月前、実行委員が各担当にお願いにいくのはその1ヶ月前・・・という話し合いになりました。そして、「5月開催だったら厳しいんじゃないの？」そんな声がかけてきました。今後は5年生がこの日の授業をもとに、「準備期間はどれぐらい必要か」「開催の日程について」などを考えていっています。次は5年生が中心となって、職員交渉「春開催⇒秋開催」への提案をしていくことになりそうです。